

# 市立病院診療科の取り組み

## 田川市立病院整形外科の治療の考え方



**整形外科**  
部長 **久枝 啓史**

整形外科は、大きく分けると脊椎、関節、外傷、頭を除く骨など広範囲な部分を診療します。整形外科で代表的な「大腿骨近位部骨折」などを治療することが多いですが、骨折を治療できても、治療後の活動性（歩行など）は低下してしまうことがあります。私たちは、骨折に対し患者さんが歩くために、どのように工夫して治療していくかを日々考えています。また、骨折をどのように予防していくかに注目しなければなりません。

骨折の一番の原因は「転倒」です。高齢になるにつれ、骨が弱くなり、筋力が急激に落ちることが転倒の原因です。そのため、筋力を維持して転倒しないようにすることが重要なので「歩く」ことを勧めています。歩く意義は筋力・骨密度が上がり、骨折しにくくなるとともに生活習慣病予防にもつながることです。しかし、高齢になると「変形性膝関節症」になる人も多く、歩くことが困難になります。この疾患は、病気というよりは老化であると考えますが、痛みを伴うため、歩くことを避けるようになり、また、悪化すると生活に支障をきたしたりするようになります。治療方法や治療のタイミングなど、人生100年といわれる現代においてみなさんが100歳までどう生きていくかを「歩く」ということを通じて、一緒に考えていきましょう。

## 田川市立病院救急科の取り組み



**救急科**  
(元)部長 **田中 潤一**

平成28年10月に救急科が設立され、公立病院として救急医療の分野で地域に貢献すること、診療の他にもスタッフへの救急対応の教育を念頭に行ってきました。

- 田川地域の救急医療レベルのボトムアップ
- 心肺蘇生法の啓蒙
- 病院スタッフの急変対応力の向上

### 【取組内容】

- ・救急勉強会を立ち上げ、毎月各部署が交代で講師を勤め、スタッフの知識や技術の向上を図った
  - ・急変対応シートを作成し、急変に対する看護力の強化を図った
  - ・地域住民に心肺蘇生法の啓蒙を行った(出前講座や講演会)
  - ・救急隊への教育的介入
- 救急医療は現場から始まっているため、救急隊員のレベル向上が地域医療の質を更に向上させることになるという考えで、可能な限り隊員へ情報を返す(フィードバック)ように取り組んだ



救急勉強会

## 田川市立病院外科における専門性を活かしたがん診療の取り組み



**外科**  
部長 **丸山 晴司**

田川市立病院は「がんに対する高度・専門医療の提供」を役割に掲げています。現在の外科常勤医師は4人で、日本外科学会や日本消化器外科学会専門医をはじめ、手術に習熟した高度技能専門医、内視鏡手術の技術認定医、がん治療認定医などの各種資格は合計で専門医10人分、技術認定医3人分、指導医・研修指導医6人分、認定医・治療認定医10人分に達し、主にベテラン外科医が担当しています。

進歩する医療技術の導入で的確な診断を行い、ガイドライン活用で治療の標準化のもと合理的な手術を行っています。術前カンファレンス、カンサーボードを通じて、多職種横断的協力によるチーム医療でがん患者さん一人ひとりに最善で最適な治療を施行しています。

専門性を活かしたがん診療の取り組みで“がん医療のレベル”の質を向上させ、地域の病院・医院と連携し、地方にある田川地域と大都市圏のがん医療の格差をなくし、高度で専門的ながん治療を提供しています。



## 田川市立病院産婦人科医療の取り組み



**産婦人科**  
部長 **藤田 拓司**

日本全体で、出生数・分娩数が減少、産婦人科医師数や分娩施設数も減少しています。それに対し、出産年齢の高齢化が進んでおり(平成27年では、第1子30.7歳、第2子32.5歳)、それに伴うハイリスク妊娠が増加しています。また、高齢社会に伴い早期発見・早期治療が必要不可欠になっています。

当院では、そのような課題と向き合い、安全と安心を届けられるよう取り組んでいます。

### 【安全】

- ①少子化→出産に対するソフト面の充実
- ②高齢出産の増加→ハイリスク妊娠の増加(悪性疾患合併妊娠増加)への診療
- ③女性疾患に対する検診の充実および対応強化(乳房、子宮、卵巣、卵管など)

### 【安心】

- ①産科医療の集約化→周産期センター設立を目指す
- ②妊娠中のケア→助産師外来、助産師によるケアサポートの充実
- ③出産後のケア→助産師、保健師の連携強化、サポートの充実
- ④症状出現時に受診しやすい体制づくり

田川市立病院 検索

※助産師外来パンフレットは当院ホームページでご覧ください。

# 市民公開講座

# 田川の医療はこう良くなりました

10月30日、今回で9回目を迎えた市民公開講座が田川青少年文化ホールで開催され、233人が参加しました。

## 特別講演

## 福岡県立大学の改革

福岡県立大学 柴田 洋三郎 理事長・学長



「学生ファースト」をモットーに新たに始められた教育改革、特に、将来の諸課題解決に活躍する人材育成のための教育システム構築などについて、福岡県立大学の柴田理事長が特別講演を行いました。

講演の中で柴田理事長は、地方にある公立大学として、少子高齢化に向かう未来社会において特に大切なことは「地方活性化を担える学生の育成である」と述べ、「なりゆき未来」から「なりたい未来」へ変えていける人材の育成として、従来の専門性のほかに汎用力(人間力)などを身につけた「専門性を持ったジェネラリスト」の大切さを説明しました。

また、看護分野での公立大学の優位性として、行政との密接な関係の形成や、保健・医療分野の地域特性である地域住民に目を向けた看護学の推進をあげられるとともに、公立大学がリードする医療・介護の社会貢献として、地域における医療・介護の包括支援や将来構想への参画、看護職人材確保の推進(卒業生の定着)などのほか、特に同大学を中心に8看護系大学が共同で取り組んでいる「看護分野における国公私立大学の連携の中核拠点の形成」について解説しました。

最後に、同大学の人材育成システムを紹介しながら、情報化社会、少子・高齢化社会、グローバル社会、地域創生社会へのそれぞれの対応(汎用力)を養う4プログラム(全学横断型教育プログラム)を説明するとともに、地域貢献の視点から、福岡県出身の卒業生の県内就職率が年々増えている点を見て、導入した教育の効果が現れていることを述べられました。



第9回市民公開講座は「田川の医療はこう良くなりました」をテーマに、まず、田川において医療・福祉の人材育成に努めてこられた、福岡県立大学柴田洋三郎理事長・学長に特別講演をお願いしました。次に、田川市立病院から、田川の医療向上に日夜努力している医師のうち本年は外科系の医師がその診療科の取り組みについて報告しました。

## 田川市立病院の改革

田川市立病院事業管理者 齋藤 貴生



平成22年度以後取り組んできた田川市立病院の改革について一言ご説明します(下図)。

これまでに二つの危機が起こり、二つの大きな改革を行いました。

第一の危機は、平成20年度～21年度に起こった不良債務の発生、医師の総引き揚げなどによる経営破綻です。改革としては、戦略経営を導入した抜本改革を行い、医療と経営の再建、3年連続の経常収支黒字化を果たし、平成28年度に病院再生を成就しました。

第二の危機は、平成29年度に表面化した、飯塚医療圏への患者流出による田川医療圏における中核病院の患者減少、経営悪化です。改革としては、田川医療圏における医療のニーズに基づく医療の提供、即ち、ホリスティック・マーケティングの導入を含む特別事業計画を策定し、平成30年1月から実行しています。これらは患者流出の抑制につながっています。

### 二つの改革

<b>第一の危機</b>	平成20～21年度
危機の要因	不良債務、医師総引き揚げ、経営破綻
改革の実施	平成22～28年度
第1期・第2期中期事業計画の実行	
戦略経営の導入、医療・経営の再建	
病院再生の成就	平成28年度
<b>第二の危機</b>	平成29年度
危機の要因	飯塚医療圏への患者流出
改革の実施	平成30年1月～
特別事業計画の実行	
ホリスティック・マーケティングの導入	